



・・・ 例 会 記 録 ・・・

5月第2週例会 2023年 5月11日(木)

ソング : 我等の生業      ボックス : 20,000円      (報告者 新沼達央会員)  
本日出席率 : 62.86%      前回修正後100 (メークアップ 14名)      (報告者 新沼福三会員)

★ 会長の時間 : 古内一二会長



5月5日の「子どもの集い」に参加していただいた会員の皆様、暑い中御苦労さまでした。4年ぶりの開催とのことで主催側も大変だったと思いますが、我々は少なからずとも、子ども達の楽しい思い出作りにひと役買ったのではないかと考えております。子どもつながり而言えば、最近気になるCMが有りまして、本田圭介選手が出演している、オッツパーク株式会社のCMなのですが、4パターンある中の一つに「順位をつけない運動会、あれはどうなんだろう。」というフレーズのCMが有ります。徒競走で皆で手をつないでゴールするやつです。最近、スクールコンプライアンスという言葉聞

きます。ジェンダー平等と言うことで、男女混合で走る徒競走とか、個人情報保護と言うことで、生徒の名前を呼ばないで行う運動会とか。我々が小学生のころには、とても考えられないことです。当然こういったことに対して賛否両論の意見が有りますが、大人の世界に於いても、順位をつけるということについていろいろ話題になった出来事もあります。2009年の民主党政権時代に行われた「事業仕分け」で、その際に蓮舂議員が言った「2位じゃだめなんですか。」の発言です。知っている方も多いと思います。これは当時スーパーコンピューター「京」の開発予算に対して言った答弁ですが、これに関して言えば、私的には「二位じゃだめだと思えます。私は、一位と二位ではかなりの差があると思います。オリンピックなどスポーツの世界では、金・銀・銅とそれぞれ讃えられますが、現実社会においては圧倒的な差が有ります。たとえば、高校野球の地区予選です。

これは一回戦で負けようが、決勝で負けようが、一位にならなければ甲子園にいけません。また知名度に於いても同様で、日本一高い山はと聞かれば「富士山」と誰もが答えるでしょうけど、二番目に高い山はと聞かれたら、何人の方が答えられるでしょうか。ちなみに知っている方いますか、これは南アルプスにある「北岳」と言う山なんです。同じように、日本一の湖は「琵琶湖」ですが二番目大きい湖はご存じでしょうか、茨城県にある霞ヶ浦です。我々も仕事の世界に於いては、一番を目指すことは大切な事です。子どもの時は順位をつけない、みんな平等な教育、しかし大人になったら、一番を目指し競争社会で生きていかなければなりません。皆さんはこれをどう思われますか？

あらためて「順位をつけない運動会、あれってどうなんだろう。」と私も思います

◆◆◆ 幹事報告 ◆◆◆

- 1 ガバナー事務所より 5月のロータリーレート 1ドル136円と連絡あり
- 2 花泉 RC より インターシティーミーティングの報告書が届いています。

◆◆◆ 委員会報告 ◆◆◆

★ 菅野嘉洋親睦委員長

ゴルフコンペのご案内です。いずれも参加希望の方は、菅野までお申し出ください。

- ・ 当クラブコンペ 6月15日 於 江刺カントリークラブ
- ・ 大船渡 RC からコンペのお誘い  
5月27日（土）於 盛岡メイプルカントリークラブ

◆◆◆ 本日のプログラム ◆◆◆  
ロータリー情報アワー

**RLI ってなんだ？**

～RLI はなぜ草の根で広がったか……～

★ 熊谷雅也 第 2520 地区 RLI 副委員長



**1, そもそも、なぜ RLI の委員になったのか？**

花巻南 RC の伊藤ガバナーのときガバナー補佐をさせていただきましたが、この年のガバナー補佐は全員 RLI のディスカッションリーダーの役をすることになりました。

その翌年、本格的に RLI が 2520 地区に導入されることになり、菅原パストに命じられ、以来今年度と来年度の副委員長をさせていただくことになりました。

(菅原パストは RLI 日本支部の地区代表ファシリテーター)

**2, RLI について簡単に説明をすると**

「RLI」は The Rotary Leadership Institute の略で、日本語では「ロータリー・リーダーシップ研究会」と呼ばれています。

1992 年、アメリカ・ニュージャージー州第 7510 地区において、元 RI 理事デビット・リンネット氏の発案で始められた「草の根による研修組織」です。

以降、世界の 410 以上の地区が参加するようになり、日本では現在 29 地区が参加。日本支部委員長は 2015 年から「北清治さん」が務めています。北さんは前回の財団アワーのビデオに出ていた方です。

**3, RLI を知る前に、そもそもロータリーとは何だろう？**

ロータリーのホームページを見てみると・・・

・「私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。」

・「切迫した問題が山積みとなっているこの世界で、私たちは単なる傍観者ではなく、自ら行動する責任があると考えています。」

・「ロータリーは以下の分野に重点を置いて活動しています。 七つの重点分野・・・平和の推進・疾病との闘い・水と衛生・母子の健康・教育の支援・地元経済の成長・環境の保護」

さらには、「ロータリー財団は世界で最大の慈善団体」とありますが、自分たちはそのような意識で日々集まり活動しているだろうか？

#### 4、自分の所属するクラブの活動実態と RI の理念・活動のギャップの中で、多くの会員は悩みもがいている(仮説)

多くの会員は以下のような悩みを心に持っているように感じるが、その根本原因は自分の所属するクラブの活動実態と RI の理念・活動のギャップにあり、そのギャップを解消するための適切な活動が行われていないことにあるように思う。

悩み① 自分のクラブの活動実態は異業種交流であり、「奉仕」といわれてもなんかピンとこない。

悩み② クラブの組織の維持で手一杯で、とても奉仕活動の時間や予算ないのが現状。

悩み③ 自分自身ロータリークラブをよく理解できていないので、他の人にも上手に説明ができない。

悩み④ ロータリーをよく理解できていないので、友人を勧誘できない。

悩み⑤ お金も時間もとられ少しも入会のメリットを感じられない。

悩み⑥ 例会に出てもいつも同じメンバーで新鮮味がなく面白くない。

悩み⑦ ロータリー活動の意義が理解できないので、活動のモチベーションが湧かない。

悩み⑧ 会長が毎年替わるため、クラブの基本的な課題が解決されないままに翌年に持ち越されてしまう。

#### 5、実は世界中のすべてのクラブは同じ悩みを抱えているのでは？(仮説)

一部の役員を除き、多くのクラブ会員は他クラブの会員と真剣に向き合い、交流する機会をほとんど持っていないでいる。→実はこれがすべての悩みの根源ではないだろうか？

東京や仙台のように、狭いエリアに多くのロータリーがある都市であれば、クラブ同士の交流の中で、RI の最新情報や他のクラブの活動情報が入ってくるため、自分のクラブの課題解決や自分のロータリアンとしての悩み解決のチャンスが多くあるように思います。

しかし、ほとんどのクラブではよほど努力しないと、RI の最新情報や他のクラブの活動情報が入ってこないため、知らず知らずに「ガラパゴス状態」になってしまう。

そのためクラブの活動が知らず知らずのうちに形骸化したり、RI の理念や活動とかけ離れたものになってしまうと感じます。さらには、会員自体が、RI の理念や活動と自クラブとのギャップに矛盾を感じるため、活動のモチベーションが高まらないのではないのでしょうか。

解決策としては次のようなことが考えられる。

解決策① 地区に役員をできるだけ送り込み、RI や他クラブの活動の情報を入手する。

解決策② ロータリーのホームページにアクセスして、RI や他のクラブの情報をできるだけ入手する。

解決策③ 他のクラブをメーキャップで訪問し、他クラブの活動を知る。

解決策④ IM(インターシティーミーティング) にできるだけ多くの会員で参加する。

日本のように狭い国土にたくさんのクラブがある国でさえも、近隣のクラブとの情報交流は少ないので、世界的に見ればかなりの割合のクラブが、クラブ間交流や会員間交流の悩みを持っているのではないかと想像できます。

#### 6、悩みが一日で解決！ 気持ちすっきり！ RLI が世界に広がった理由。

以上見てきたように、世界中のクラブとその構成員であるロータリアンは「RI の理念と活動」と「自クラブの活動実態」との間のギャップや矛盾を抱えながら活動しており、それを解決する有効な手段として RLI が広がっていったと考えられます。

RLI のセミナーは、このような会員の悩みを、会員自らが解決できるようプログラムが工夫され、受講者にとって以下のようなメリットがあると考えられます。

①6 つのセッションで、互いに様々なロータリーの課題を吐き出し合うことにより、各自が課題解決の糸口を見つけることができる。



②1日の中で、参加者全員と名刺交換、交流し互いの話を聞ける。自分のクラブ以外の人と交流できる貴重な機会。

③3回のセミナーの中で、自分の尊敬できるロータリアンを見つけ友人になれる。

ロータリアンとして長く活動するには、「目標とするロータリアン」を見つけることが大切。

④他クラブの活動の内容を知り、自分のクラブの活動を客観的に見ることができる。

⑤他クラブの活動の内容を知り、モチベーションをもらえる。自分が会長や幹事の時の具体的な活動目標や意欲に繋がる。

⑥他クラブのメンバーとの交流を通して、自分のクラブの改善意欲が湧いてくる。

⑥上記のようなことを通して、ロータリー活動の理念と活動実態とのギャップを埋め、ロータリー活動の本質を体感できる

### <まとめ>

現代の世界(地球)は、地球規模の災害や貧困・病気、さらには戦争などの多くの問題を抱え、その問題の前で多くの人が立ち尽くしているように見えますが、もしその問題解決のために一人ひとりが微力でも力を出せるとしたら、「Glocal(グローバル)・・・世界的視野で考え、地域で行動する」という考えが必要だと考えます。

そして、その考えを実行しているのが私たちが所属するロータリーという組織だと考えます。

RIの活動は、日本の一地方に住む私たちにとってあまりにスケールが大きな存在ですが、間違いなく私たちによって支えられ活動している存在です。RIの理念と活動を自分たちのこの地域に置き換えて活動することにより、RIと自クラブとのギャップが少なくなり、自らの活動に誇りと意義を感じることができるようになるのではないかと思います。

### 5月2日10時～ 育みの像清掃実施





5月5日 こいのぼり子どもの集い  
手づくり鯉のぼりコーナーとポップコーンコーナーを担当

